

執筆者

賈 鵬飛……………言語文化研究科博士課程院生
佐藤 秀俊……………言語文化研究科修士課程院生
陳 新……………言語文化研究科博士課程院生
王 唯斯……………言語文化研究科博士課程院生

<編集後記>

今年もまた、梅の便りがあちこちから届く季節になった。
百花に先駆けて寒中に咲く梅の花は、桜のような華やかさこそないものの、気品に満ちた清香が人々を魅了してやまない。北宋の文人・林逋にも、よく知られた次のごとき句がある（「山園小梅」）。

疎影横斜水清浅 疎影横斜して水清浅
暗香浮动月黄昏 暗香浮动して月黄昏

いまここに収め得た四篇の論考も、早春に咲く梅の花に例えることができよう。大向こうをうならせるような派手さはないが、着実な調査と手堅い考証とによって、それぞれの分野に清新な香りを運んでいる。

梅といえば、また次のような発句も思い出される。

東海道のこらず梅となりにけり 成美

作家の丸谷オ一によれば、この句の前書には「子どもの道中双六といふものをうつを見て」とあって、江戸が振り出しで京が上がりの道中双六の東海道に、梅の花の形をした小さな札がずらりと並ぶさまと、現実の東海道の、いっせいに梅の花が咲いた早春の景とをかけたものという。

この句のように、次号にも馥郁たる清香を放つ梅花のごとき論考が、ずらりと並ぶことを今から楽しみにしている。

坂口 三樹

文教大学大学院言語文化研究科紀要 第5号

2019年3月16日印刷・発行

編集 文教大学大学院言語文化研究科

代表者 白井 啓介

事務室 松崎 智美

発行 文教大学大学院言語文化研究科

〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島3337

TEL 048 (974) 8811 内線2301

印刷 コスモプリント株式会社